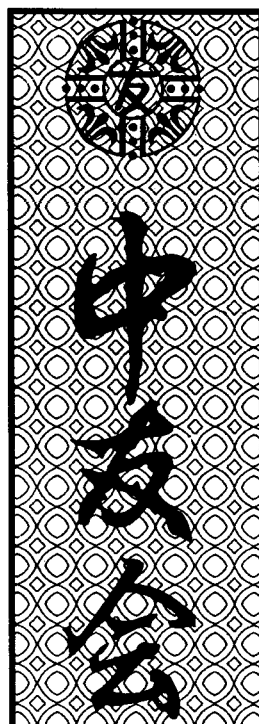


コロナ禍の中で想うこと

中友会会長 宇津木 順一

コロナ禍の中ではありますが、三月に入りますと野山の色合いがうつすらと変わり、やがて木々の彩りが日々刻々と映えて、草木の息吹が溢れ、生命の躍動感が伝わってきます。いよいよ今年の活動が始まるという、新たな期待が膨らみ、心が弾んできます。かつて、人々が一番好きな季節は秋が多いという話を聞いたことがありますが、私は、この生命感溢れる春に最も好感を持っています。年齢が高くなると春を好む者が多いというような話も聞いたことがありますので、年齢の影響もあるのかもしれません。

さて、コロナ禍の中で、改めて中友会について考えてみました。様々な想いがありますが、一つは、やはり、幹事の選任についてです。「中友会の運営は、旧新相和した美しい姿が展開」と言われたように、発足以来、校長退職直後に就任した幹事が中心になって事業活動が進められてきました。しかし、この一〇年来、校長の再任用制度等が進む中、幹事の選任が非常に難しくなっています。現在、会長の薦めによる有志の方によって会が運営維持されている状況があります。幾つかの改善策を提示してきましたが、制度化には至っていません。この課題については、中友会の原点



[発行所]

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

● 親 睦
● 互 助
● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>

になる都中学校校長会との連携を一層深め、一体となつての幹事選任についての制度改革が必要と考えています。現職の校長先生方全員への会報の配付などを通して、会に対する理解は進んできていると思えますが、現在、コロナ禍で校長会との情報交換等の繋がりが難しくなっています。状況が好転した際には、交流を密にし連携を深めて、校長会の理解をいただきながら検討を進めていくことが大切と思っています。

二つは、会費や会議等、会則に関わる課題です。会則で年会費が定められていますが、物価が高騰し諸経費が上がり、会計が非常に厳しい状況になっていきます。また、特に定めはありませんが、慣行で米寿のお祝いを迎えた翌年度からは会費を免除しています。大変嬉しいことではありますが、今後、高齢化が進み免除会員が大きく増加することが見込まれています。健全な財政運営のために、会費の値上げ等の検討が必要になっていきます。

また、多くの退職校長は退職後も現職時と同じような働き方をしていますので、効率的な会の運営によって幹事等役員負担軽減を図る必要がありますが、役員会等の会議の回数なども会則に

よって定められています。運営面からも会則の見直しが必要になっていきます。既に幹事会で改正案を整理していますので、状況が落ち着いた段階で総会で審議いただくことにしています。

三つは、コロナ禍での生活様式の変化を主体的に受け止め、ウィズコロナに相応しい新たな中友会の活動への期待です。その一つとして、オンライン会議等、リモートワークを組織的に取り上げるなど、会の運営について新たな視点を持つ必要があると考えます。また、中学校は学校教育の要として日本の教育をリードしてきました。その中学校の校長としての共通の体験が中友会の基盤にあります。共通の体験を通して培った信頼や絆を大切にして、中学校長のたくましい実践の努力や精神を、もっと広く会員で共有することが大事だと思います。このことについては、前回の会報「会員の窓」で、中学校を日本の学校教育の中に根付かせ発展させてきた方々の体験がテーマに取り上げられ、寄稿していただきました。この思いに込めていただきたいと思います。

今日のような閉塞感のあるときこそ、様々な情報を共有し、豊かな生き方について共に考えていくことが大切だと思います。苦楽を共にした共通の体験を基盤に、中友会が会員の積極的な交流の場になるよう願っています。

新型コロナウイルス感染拡大が深刻な状況になっていきます。コロナウイルスに負けないよう体力、気力を充実させて日々を過ごしたいと思えます。

*本会の最重要事業である第十八回合祀慰霊祭について、本年六月五日の挙行に向けて準備を重ねて参りましたが、一年延期することにいたしました。また、令和三年度第五十四回定期総会につきましても、役員会をもって総会に代えさせていただきますことにいたしました。ご理解ご了承いただきたいと思います。